

# 中山光次君について

ガネフォ水球

吉田 稔

(法政大学出身)

中山光次君は、私と同期の昭和35年、法政大学文学部卒業です。水泳部の入部は1年生の時からで、正直パワーはあってもスピードはやや劣っていたため、私と同様2年生から競泳と共に水球を始めました。

生家は東京田端の出身で、5人姉弟の3番目で長男です。

2年生から競泳との並行練習で、当時関東学生の水球ランクでは、2部の下部であったために、上を目指すためには水球の専門チームとして分離し、単独の練習をして頑張るより手はないとの事で、3年になった時から法泳会水球部として、単独練習をすることになりました。そして私吉田が主将、中山君がマネージャーとして出発。シーズンに入る前には成城大学や、日本大学、早稲田大学等の強豪校のプールに練習試合をお願いして出向き、努力はしたものの、その年は2部の上位に上がるものの1位にはなれず、翌4年生におけるシーズンでは2部の1位となりましたが、惜しくも入れ替え戦で敗れ、1部昇格は出来ずに卒業となりました。

卒業と同時に2人そろって58クラブに入会し、今度は各学校の水球愛好者によるクラブの一員として、仕事の傍ら全日本大会などに参加し、水球から足を洗えず、昭和38年のGANEF0参加となった次第です。

中山君は卒業後ルノーの販売会社から確か塗装会社に転職し、G

ANEFOでは各参加国代表のレフェリーとして登録され、対日本以外の試合のレフェリーとして、大会期間中活躍してくれました。

帰国後結婚して、やがてスペインはバルセロナ近くの島に移住。後年私がスペイン旅行をした際に、バルセロナで会い、海鮮料理屋で冷凍室に入っているテキーラで乾杯した事が、今も鮮明に記憶にとどまっています。

それから数年たって、奥さんのご家族の関係で帰国し、千葉県に居住しておりましたが、奥さんの健康状態が悪くなり、奄美大島の施設に転入して数年。結局奥さんの他界と共に東京に戻り、今はさいたま市の老後施設に入所中です。

先日村上君がその施設を訪ねてくださった際に、中山君と電話で話した様子では、元気そうな声はしていたものの、やはり足元が不安定だそうで、本人一人では今年のカネフォ会には出席不可能との事でした。

今の彼の状態では寄稿は難しそうなので、私が変わってGANEF0以降のあらましをしたための次第です。